

クリタ株主通信

株主の皆様へ

2014 年 3 月期 第 3 四半期

2013.4.1 ~ 12.31

【目次】

企業理念・企業ビジョン・クリタの特長	1
トップインタビュー	3
トピックス	5
2014 年 3 月期 第 3 四半期連結業績のご報告	
連結業績ハイライト	7
セグメント別ハイライト	9
会社情報・株主メモ	11



企業理念

“水”を究め、自然と人間が 調和した 豊かな環境を創造する

水の本質を深く、広く追究することによって、
水の新しい機能、価値を生み出し、
限りある水を最大限有効活用することにより、
社会に貢献していきます。

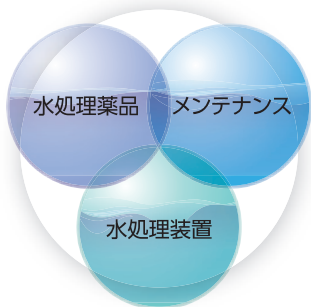
企業ビジョン

水と環境の 先進的マネジメント企業

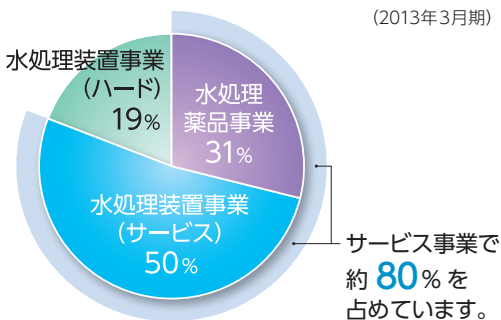
クリタグループは
「水のマネジメント」をさらに進化させ、
限られた水資源を有効活用する
「先進的マネジメント」の実現をめざします。

クリタの特長

■「水と環境」の分野において、3つの機能をバランスよく併せ持つのはクリタだけです。

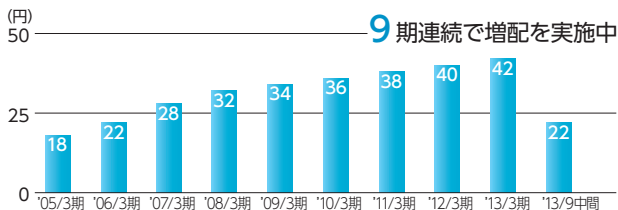


■収益性が高く安定的なサービス事業の比率が約80%を占めています。



■安定配当の継続を基本方針とし、配当の増額に努めていきます。

■1株当たり配当金(年間)の推移



トップインタビュー

代表取締役社長

中井 稔之



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

2014年3月期 第3四半期の

事業概況などについて、

株主の皆様のご質問にお答えいたします。

Q1 | 2014年3月期 第3四半期の
連結業績の概要について説明してください。

世界経済は、中国やアジアの新興国の景気減速はありましたが、好調な米国経済に支えられ、緩やかな回復を示し、停滞が続いていた欧州経済も底入れの兆しが見られました。一方、国内においては、円高是正や一連の経済政策の実施により景況感が改善し、個人消費や企業業績に持ち直しの動きが見られたものの、工場操業度や設備投資については大幅な改善には至りませんでした。

このようななか、当社グループを取り巻く環境は厳しい状況が続きました。国内では、主要なお客様である製造業の設備投資は低調に推移し、操業度の回復も緩やかなものでした。海外では、水処理の需要は拡大しているものの、電子産業分野において設備投資の中止や遅延が発生したことに加え、価格競争激化の影響を受けました。以上の結果、当社グループ全体の受注高は1,289億円（前

年同期比1.5%減)、売上高は1,238億円(同4.5%減)となりました。利益については、営業利益98億円(同33.1%減)、経常利益107億円(同30.6%減)、四半期純利益は63億円(同12.9%減)となりました。なお営業利益の減少は、原価率の悪化や販売費及び一般管理費の増加が主な要因です。

Q2 | 当期の主な取り組みについて教えてください。

当社グループは、「水と環境の先進的マネジメント企業」を企業ビジョンに掲げ、技術力をベースに、お客様の「水と環境」に関するさまざまな課題に対し解決策を提案して、新たな価値の創造をめざしています。

このたびサービスを開始した「S.sensing®」は、水処理薬品事業において、より質の高い課題解決をスピーディに実行するためのツールです。現場でリアルタイムに水質状況や水処理効果をお客様と共有することで、お客様の信頼がより強固なものになると期待しています。そして提案の価値を認めていただければ、シェアの拡大や収益性の向上が実現できると考えています（「S.sensing®」については、トピックスのページ(P5)で詳しくご紹介しています）。

また水処理装置事業において、営業部門と生産部門が連携し、受注活動の初期段階でお客様の課題を徹底して検証し最適な提案につなげるとともに、グローバルな調達体制の整備などコスト競争力の強化に引き続き努めていきます。

株主の皆様には、日頃のご高配に心からお礼を申しあげますとともに、今後も一層のご支援をお願いします。

2014年2月

トピックス

リアルタイムに最適な水処理を実現する 水処理管理サービス「S.sensing®」を開始

水処理薬品事業において、センシング技術を活用した新たな水処理管理サービス「S.sensing®」を開始しました。

本サービスは、冷却水系や排水処理設備など水処理薬品が使用される設備において、独自の「計測」「解析」「制御」「監視」の各技術を組み合わせたシステムを適用し、水質変動に応じてリアルタイムで最適な薬品注入制御を行います。水質や薬品注入量・残量などのデータを監視する従来までのサービスに加え、薬品の有効濃度および水処理効果を解析して自動制御することで、より効果的な水処理を実現します。

例えば、冷却設備における薬品濃度の過不足を解消して水処理を最適化するサービスや、排水処理設備における処理水質の安定化とコストダウンを実現するサービス、紙パルプの製造プロセスなどで生産性向上に貢献するサービスを提供していきます。

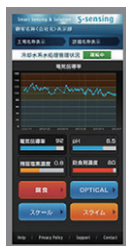
これらの計測データ・制御の結果は通信回線を通じて自動収集され、遠隔でトレンドを監視することが可能です。お客様は時系列的なデータや自動解析されたレポート・グラフをインターネット上で確認できます。

当社においても、水処理管理の状況や効果、時間の経過に伴う変化の傾向をお客様とリアルタイムで共有し、トラブルの事前予測や、生産性向上、環境負荷低減につながる提案を実施できます。当社では今後、国内外の各市場分野でS.sensing®の適用を拡大し、幅広くお客様のニーズに応えていきます。

「S.sensing®」による冷却水処理の管理画面



PC向け



スマートフォン向け

嫌気処理装置とバイオガス発電を組み合わせ、 環境負荷の低減と創エネルギーを実現

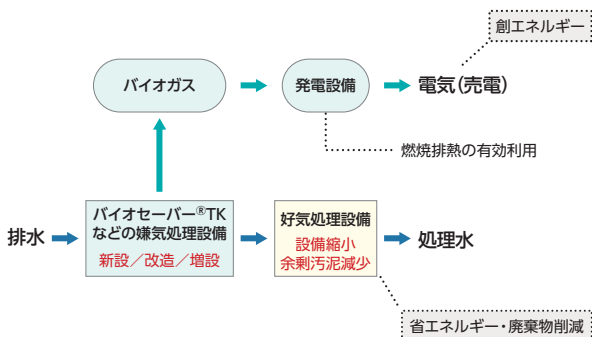
食品工場などの排水処理において、嫌気処理装置から発生するバイオガスを発電燃料として有効利用するシステムの提案を推進しています。

嫌気処理は、酸素が不要な環境下で活動する微生物の特徴を活かした排水処理技術で、好気性処理と比べて、消費動力が少ない、廃棄物の発生が少ない、設備がコンパクト、発生するメタンガスが利用可能などのメリットがあります。

このメタンガスをはじめとするバイオガスは、CO₂削減に寄与する再生可能エネルギーとして注目されている新エネルギーの一つです。2012年7月には、経済産業省による「再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT: Feed-in Tariff）」がスタートし、今後の普及が期待されています。

当社は、低濃度の有機性排水にも対応できる「バイオセーバー[®]TK」など、お客様の排水処理ニーズに幅広く対応できる嫌気処理技術を活用し、既存の排水処理システムの改善やバイオガスの効果的な利用方法について提案・検証を進めていきます。また、FIT制度の認証取得にあたってお客様への技術的サポートにも取り組み、環境負荷低減・創エネルギーの実現はもちろん、再生可能エネルギーの普及にも貢献していきます。

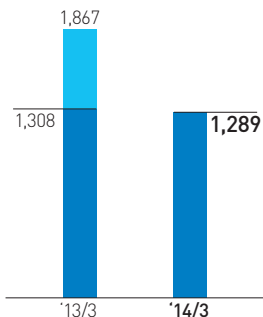
嫌気処理技術を活用したバイオガス発電の提案例



連結業績ハイライト

受注高 (億円)

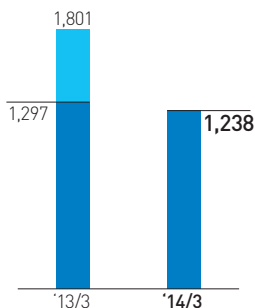
1,289 億円



■ 通期 ■ 第3四半期

売上高 (億円)

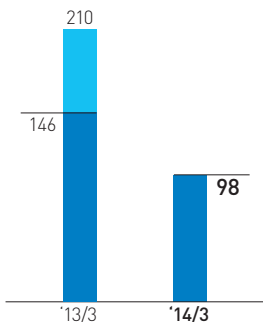
1,238 億円



■ 通期 ■ 第3四半期

営業利益 (億円)

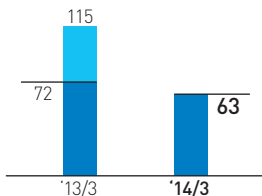
98 億円



■ 通期 ■ 第3四半期

四半期 (当期) 純利益 (億円)

63 億円



■ 通期 ■ 第3四半期

※グラフの金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

要約貸借対照表 (億円)

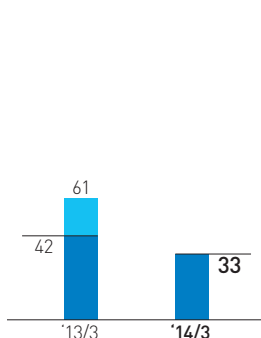
2013年12月31日現在

			流動負債	332	(△ 22)
			固定負債	189	(△ 1)
流動資産	1,544	(+75)			
固定資産	1,141	(△ 26)			
			純資産	2,164	(+73)
総資産			2,685	(+49)	

※()内は 2013 年 3 月末と比較した増減を表示しています

設備投資額 (有形固定資産) (億円)

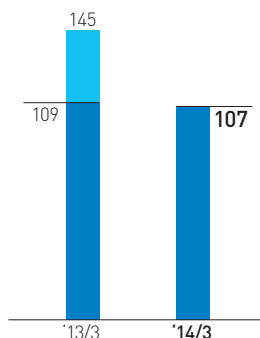
33 億円



■ 通期 ■ 第3四半期

減価償却費 (有形固定資産) (億円)

107 億円



■ 通期 ■ 第3四半期

セグメント別ハイライト

水処理薬品事業

受注高 441億円 (前年同期比5.4%増)

売上高 432億円 (同1.7%増)

営業利益 61億円 (同6.7%減)

受注高・売上高については、国内では、顧客の操業度改善が緩慢だったことにより、主力のボイラ薬品、紙・パルプ向けプロセス薬品が減少しましたが、海外では、東南アジア、中国を中心に、冷却水薬品、排水処理薬品、逆浸透膜処理薬品が増加しました。



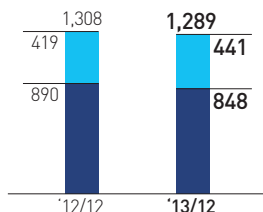
この結果、このセグメントの受注高は441億円（前年同期比5.4%増）、売上高は432億円（同1.7%増）となり、共に増加しました。

利益については、増収の効果はあったものの、海外における人員増により販売費及び一般管理費が増加し、営業利益は61億円（同6.7%減）となりました。

セグメント別業績の推移

- 水処理薬品事業
- 水処理装置事業

受注高 (億円)



注) 営業利益の合計は、セグメント間取引消去に伴う調整後で表示しています。

水処理装置事業

受注高 848億円 (前年同期比4.7%減)

売上高 806億円 (同7.6%減)

営業利益 37億円 (同54.2%減)

受注高・売上高については、国内では、設備投資需要が低迷する電子産業分野で水処理装置が減少し、一般産業分野でも東日本大震災の復旧需要の一巡により、電力向けの水処理装置が減少しました。一方、設備投資動向の影響を受けにくい超純水供給事業は微減にとどまりました。

海外では、東アジアの電子産業向け案件において、顧客の設備投資時期の遅延による着工延期や中止があり、受注高・売上高が共に減少しました。

この結果、このセグメントの受注高は848億円 (前年同期比4.7%減)、売上高は806億円 (同7.6%減)となりました。

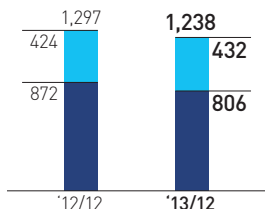
利益については、一部案件において工事損失や追加コ



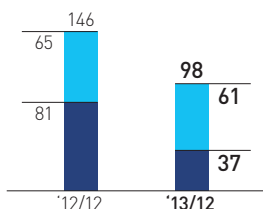
ストが発生したことや、減収の影響により原価率が悪化し、営業利益は37億円 (同54.2%減)となりました。

※金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



詳細は当社ホームページで
ご確認ください。

URL <http://ir.kurita.co.jp/>

栗田工業 IR

検索

会社情報 (2013年9月30日現在)

商号	栗田工業株式会社 (Kurita Water Industries Ltd.)
本社所在地	東京都中野区中野四丁目10番1号 中野セントラルパークイースト
設立年月日	1949年7月13日
資本金	134億5,075万円
従業員数	1,581名 (連結4,740名)
ホームページアドレス	http://www.kurita.co.jp/

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
利益配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日 (中間配当を行う場合)	9月30日
基準日	3月31日 (そのほか臨時に必要なときに あらかじめ公告いたします。)
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人および 特別口座管理機関 (電話照会先)	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 フリーダイヤル 0120-782-031 (受付時間：平日 9：00～17：00)
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社全国各支店

諸手続きお問い合わせ先 (住所変更、単元未満株式の買取請求、未払配当金の照会等)

- ・証券会社の口座に記録された株式の場合
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
ただし、未払配当金の照会については、三井住友信託銀行株式会社 (株主名簿管理人) にお申出ください。
- ・特別口座に記録された株式の場合
三井住友信託銀行株式会社 (株主名簿管理人および特別口座管理機関) にお申出ください。

本株主通信に関するお問い合わせ先 経営企画室 企画部 広報課
TEL. 03-6743-5007